

月刊「キリスト教書評誌」

本のひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2023年5月1日発行（毎月一回1日発行）第785号

May
2023 5

● 出会い・本・人

「ドン・ボスコ」と「ウェスレー」 Ⅱ 交わる出会い 林 牧人

● 特集詩を書くなら

この三冊！ 柴崎 聰

● 本・批評と紹介

N・T・ライト著／岩上敬人訳

すべての人のためのローマ書2 山口希生

堀内 昭著 聖書の動物よもやま話 上田恵介

伊東寿泰著 これで変わる！あなたの英語力！ 遠藤勝信

関西学院大学キリスト教と文化研究センター編

キリスト教で読み解く世界の映画 松本敏之

吉村和雄著 説教 最後の晩餐 小泉 健

片柳弘史著 日々を生きる力 露の団姫

吉田 亮著

アメリカ日本人移民キリスト教と人種主義 小檜山ルイ

栗原 茂著 ある牧師の眼 金井美彦

近刊情報

書店案内

カルヴァンの救済の神学

救いの恵みの漸層法

春名純人 著



神の子とされたキリスト者たちが苦難に呻くとき、希望と慰めはどこにあるのか？ 人間の罪によって滅びに隷属した被造物が、キリストのもとで回復するべき何が起きるか？ カルヴァンのパウロ書簡註解を紐解き、聖定から栄光へと至る救いの過程を跡づける。

● A5判・並製・200頁・定価4,180円

好評発売中！

カルヴァン

亡命者と生きた改革者

C・シユトローム 著 菊地純子 訳

宗教亡命者としてジュネーヴに渡り、改革者となったカルヴァンの生涯と思想をコンパクトに解説多面にわたるカルヴァンの素顔を、最新の歴史学的研究から描き出す。

● 四六判・並製・176頁・定価2,420円

カルヴァン論争文書集

J・カルヴァン 著 久米あつみ 編訳

宗教亡命者としてジュネーヴに渡り、改革者となったカルヴァンの生涯と思想をコンパクトに解説多面にわたるカルヴァンの素顔を、最新の歴史学的研究から描き出す。

● A5判・上製・400頁・定価4,180円



アシジのフランシスコの生涯

A・トムソン 著 持田鋼一郎 訳

現代に甦る「人間」フランシスコ



富裕な家庭の青年はなぜ敬虔なキリスト者に回心したのか。彼のどのような魅力が多くの人々を惹きつけたのか。指導者としての重圧や世俗との葛藤とどう闘ったのか。厳密な史料批判に基づき、聖人伝の「伝説」の背後にある人間的な実像を描く、現代人に向けた新しい伝記！

● 四六判・並製・310頁・定価3,630円

好評発売中！

アシジの聖フランシスコ伝記資料集

フランシスコ会日本管区 訳監修

中世最大の聖人に関する最初期の証言を集めた源泉資料集。チエラノのトマスによる『生涯』、聖ボナヴェントゥラによる『大伝記』、小伝記、文学作品として名高い『小さき花』など、初の邦訳を含む聖人伝8作品と付録を収録。

● A5判・上製・800頁・定価8,580円

アシジの聖フランシスコ・聖クララ著作集

アシジのフランシスコ／アシジのクララ 著

フランシスコが遺した全作品の集成。兄弟なる太陽の賛歌に代表される賛歌と祈り、手紙、会則、遺言など、師父の神理解と福音的精神を伝える文書群。教会史上初めて女性のための会則を編んだ後継者クララの全著作も併録。

● A5判・上製・317頁・定価5,280円





「ドン・ボスコ」と「ウエスレー」 Ⅱ 交わる出会い

林 牧人

カトリック教会附属の幼稚園での出会いをとおして、中学高校6年間でカトリック校で学ぶことになった。入学前に、サレジオ会創立者の評伝『ドン・ボスコの生涯』（オフレージャー著、バルバロ訳）が配られ、感想文を提出するようにとの課題が出された。その献身の生涯に関心を持ちつつ、創立者の思いが満ちた学校の一員となる期待を抱いた。

入学後は、いきおい、自身が所属する日本基督教団の教会との相違に直面することとなった。宗教科の授業で「あなたはクリスチャンだが信者ではありません」と言われたことは衝撃だった。折しも近隣の病院でエホバの証人の輸血拒否問題が起きたこともあって、級友たちに自らの信仰的立場を説明する必要に迫られた。こうして、自らの属する教会がメソジストの伝統を持ち、それを重んじる群であることを知ることになった。

学内のミサで級友たちが聖体拝領するのを眺めつつ、自らも陪餐したいという思いが募り、所属教会で堅信礼を受けた。ま

た、司祭志願者（志願生）が各クラスにいたことで、献身と言ふことにも思いを向けることになった。神父様方の勧めで、カトリック研究会に属し、ミサの準備や奉仕など卒業まで活動した。また、始業前の公教要理のクラスにも参加した。

ある主日のこと、所属教会の週報欄に『ジョン・ウエスレーの生涯』（テルフォード著、深町正信訳）が配られていた。あらためて、メソジストの創始者との出会いが与えられた。「伝道・教育・奉仕」を一体とするメソジストの特質は、ドン・ボスコに通ずるところがあり、また、その教會的立ち位置は、カトリックとの架け橋となり得るのではとの思いを抱いた。「メソジストには親近感がある」と語る神父様もいらしたことにその意を強くした。この思いは今も変わらず、牧師としての立ち位置を形づくっている。多くの出会いに感謝は尽きない。

（はやし・まきと Ⅱ 日本基督教団西新井教会牧師・附属西新井教会保育園園長・日本基督教団出版局『信徒の友』編集長）



詩を書くなら

▼この三冊！

柴崎 聰

(しばさき・さとし：日本聖書神学校講師、詩人)

「詩を書くならこの三冊」という課題を与えられて、私には戸惑いと逡巡

があります。この三冊を読めば詩が書けるようになるかと言えば、そんなこととはありません。私の歩みを振り返ると、詩を書いていく継続力は、どれだけ先人の詩に魂を揺さぶられる経験をしてきたかにかかっているように思われてならないからです。

私が初めて教会で礼拝し、下宿の四畳半の部屋に戻ってから、急に詩が書きたくなって書き始めたのは、もう六

十年前のことにあります。

折に触れて詩の案内書を読んできたことはありますが、それらの本に直接促されて詩を書いたことはないと思います。今でも影響を受けているのは、村野四郎著『現代詩を求めて』（社会思想社）、山本太郎著『詩の作法』（社会思想社）でした。

村野の案内書から私が得たものは、「詩は「言葉」以外に表現する素材を持たない」という潔い覚悟であり、「詩は、古くなった言葉にたえず新しい、彼に集る不評判は子供の私の耳にさえも入っていた。

井上靖著『井上靖全詩集』

井上靖（一九〇七—一九九一年）は、

『猟銃』『鬮牛』『氷壁』『風林火山』『天平の甕』『おろしや国酔夢譚』『敦煌』『孔子』などで知られる小説家ですが、私にとっては、それ以上に詩人です。

彼は、行分け詩をほとんど書きませんでした。行分け詩を捨てて「散文詩一辺倒になったのは、行分け詩が、歌うことに流れるのを意識して抑制したからだ」と言います。

全詩集に収録されている詩集は、『北国』『地中海』『運河』『季節』『遠征路』ですが、その中から詩集『北国』に収録され、その後小説名にもなった「猟銃」という詩を引用します。

猟銃

なぜかその中年男は村人の響聲を買

い生命をよみがえらせるもの」であるという至極簡潔な励ましの言葉でした。言葉以外に表現する手段を持たないという不自由さが、思いも寄らないぎりぎりの表現を生み出すのであり、疲れきった言葉の再生復活を果たすのだということでした。

それに加えて、山本から与えられた次の促しでした。「そして・だが・しかし・けれど・すると・と突然・したがって・とはいえ……」などの接続詞、もしくは接続詞的要素を出来るだけ使わないようにしましょう。「この勧めは、若かった私には衝撃的なものでした。それからは、単に文と文を結ぶ機械的な働きしかしていないような接続詞の使用に極力抑制的になりました。

これから紹介する詩集二冊と評論一冊は、どれも私にとって大切な詩集と案内書になりました。

ある冬の朝、私は、その人がかたく銃弾の腰帯をしめ、コールテンの上衣の上に猟銃を重くくいませ、長靴で霜柱を踏みしだきながら、天城への間道の叢をゆつくりと分け登ってゆくのを見たことがあった。

それから二十余年、その人はとうに故人になったが、その時のその人の背姿は今でも私の臉から消えない。生きものの命断つ白い鋼鉄の器具で、あのように冷たく武装しなければならなかったものは何であったのか。私はいまでも都会の雑踏の中にある時、ふとあの猟人のように歩きたいと思うことがある。ゆつくりと、静かに、冷たく――。そして、人生の白い河床をのぞき見た中年の孤独なる精神と肉体の双方に、同時にしみ入るような重量感を捺印するのは、やはりあの磨き光れ

る一個の猟銃を思いはなしかと思っただ。

小説を思わせる緊迫した書き出しです。その佇まいの厳しさの理由は、詩の中心に非情とも言える猟銃を据えているからです。詩の語り手は、「二十余年」も前の出来事を振り返っています。この詩がずしりとした重みを持っているのは、鋼鉄の器具を仔細に描写しているからです。

どれだけ人と物との関わりを見据えて描写できるのか、そこにこそ詩の並々ならぬ潜在力があります。

石垣りん著『石垣りん詩集』

石垣りん（一九二〇—二〇〇四年）

は、長年銀行員として誠実に勤務してきました。詩集『私の前にある鍋とお釜と燃える火と』『表札など』『略歴』『やさしい言葉』などで知られる詩人

です。日常茶飯の平明な言葉を用いて詩を書きましたが、一見した印象とは異なり、詩の中に読み手の意表をつく批評精神を隠し持っていることがあります。詩集『表札など』の標題詩「表札」を紹介します。

表札

自分の住むところには

自分の表札を出すにかぎる。

自分の寝泊りする場所に

他人がかけてくれる表札は

いつもろくなことはない。

病院へ入院したら

病室の名札には石垣りん様と

様が付いた。

旅館に泊っても

ものへの、いとおしみの感情をやさしく誘いだしてもくれます。どこの国でも詩は、その国のことばの花々です」と著者は語り出しますが、まさにこの案内書自体が花々に溢れています。

三十人の極上の詩群が選ばれ、その作品に対して愛情に満ちた解釈が施さ

部屋の外に名前が出ないがやがて焼場の鏝かまにはいるととじた扉の上に石垣りん殿と札が下がるだろうそのとき私がこぼめるか？

様も

殿も

付いてはいけない、

自分の住む所には

自分の手で表札をかけるに限る。

精神の在り場所も

ハタから表札をかけられてはならな

い

石垣りん

それでよい。

木製なのか陶器製なのか分かりませんが、ここにはどの家にもあるはずの

れています。それぞれの詩人の人柄ならぬ「詩柄」が私たちの魂深くに分け入り、愛情が発掘され解放されます。

まとめ

伝えたいことがすではっきり書いて書く詩よりも、書いていくことに

表札が取り上げられています。難しい言葉はいつさい使われていません。この詩人が伝えたいことはひしひしと伝わってきます。それが私たちの生き方を問うてくるのです。表札一つの在りようから、詩人の凛とした姿がすつくと立ち上がってきます。

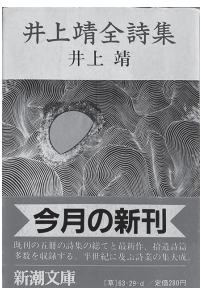
茨木のり子著『詩のころを読む』

茨木のり子（一九二六—二〇〇六年）は、詩人、エッセイスト、童話作家、脚本家でした。主な詩集に、『見えない配達夫』『鎮魂歌』『自分の感受性くらい』『倚りかからず』などがあります。この案内書は、私が人生最大の危機に直面した時期に病院の待合室で読み、深く慰められ励まされた本でした。

「はじめに」において「いい詩には、ひとの心を解き放ってくれる力があります。いい詩はまた、生きとし生ける

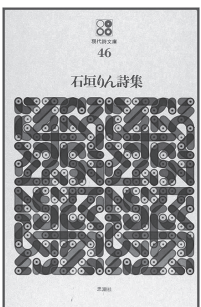
よって、作品の意図が次第に明確になり、本人も驚きながら味わえる詩に私は魅かれます。

詩を数多く読むこと、それらに感動する自分を愛おしむこと、日常の中で非日常を見つめることに喜びを覚えること、本稿の課題への私の答えです。



『井上靖全詩集』

井上 靖：著
新潮社
1983 年刊
文庫判 263 頁
品切れ



『石垣りん詩集』

(現代詩文庫 46)

石垣りん：著
思潮社
1971 年刊
四六判 156 頁
1,282 円



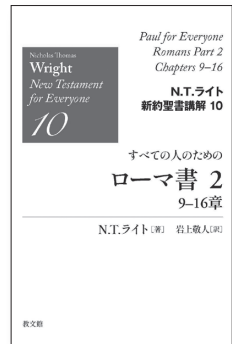
『詩のころを読む』

(岩波ジュニア新書9)

茨木のり子：著
岩波書店
1979 年刊
新書判 220 頁
品切れ

世界平和の実践のために

〈評者〉 山口希生



N・T・ライト新約聖書講解10
すべての人のための
ローマ書2
9-16章
N.T.ライト(著) 岩上敬人(訳)
岩上敬人訳



N・T・ライトはローマ書簡を四楽章から成る交響曲に見立てています(本書一四六頁)。本講解シリーズ9の「ローマ書1」では第一、第二楽章にあたる「二―四章」と「五―八章」に、そして本書「ローマ書2」では第三、第四楽章に相当する箇所注解が施されています。具体的には、ユダヤ人のメシア・イエスへの不信仰という深刻な問題を扱った「九―十一章」が第三楽章で、キリスト者としての具体的な歩みについて教える「一〇―十五章」がフィナーレの第四楽章だということです(二六章は挨拶、あとがきに相当します)。大使徒パウロのマスターピースであるローマ書に匹敵する交響曲をクラシック音楽から探さなければ、ベートーヴェンの第九ほど相応しい曲はないでしょうが、このジャンルの全く異なる二つの傑作には興味深い類似点があります。ベートーヴェンは当時の交響曲の

慣例を破って、第二楽章ではなく第三楽章に祈りにも似た緩徐楽章を置きましたが、それがこの交響曲に何とも思えない深みを与えました。パウロの九―十一章も祈りとも思えるようなパウロの個人的な心情を吐露した箇所ですが、イスラエルの躓きが、異邦人を救いに導くというイスラエルの召命を逆説的に果たす結果となることを、ライトは丁寧に説明しています。族長ヨセフの兄弟たちがヨセフに働いた悪が、結果的には異邦人にもイスラエル人にも益となったように、ユダヤ人の悲しむべき現状が、ついにはユダヤ人と異邦人から成る一つの家族へと結実していくというパウロのヴィジョンを、本書は感動的に描いています。第九の第四楽章も、これまた交響曲には革命的なことに、合唱が導入されています。そのテーマはシラーの詩の通り「人類愛」なのですが、パウロの一三―一五章のテーマ

も、民族や国境の壁を乗り越えた普遍的な共同体、神の家族をいかにして作り上げるのか、ということにあります。ガラテヤ書では、異邦人信徒がモーセ律法を行うことに強硬に反対したパウロですが、このローマ書ではモーセ律法を遵守しようとするユダヤ人信徒に最大限配慮するようにと、異邦人信徒に呼びかけています。つまり、パウロが律法に反対したり、あるいは擁護したりするのは、「(行いの)律法」対「(信仰のみの)福音」というような神学的二項対立によるのではなく、教会内の一致を保つためだったということです。ベートーヴェンの夢見た人類愛がいかにして達成されるのか、その具体的な道しるべを示しているのがローマ書一三―一五章だということです。ライトはローマ書のメインテーマを、「イスラエルを通して、神は

すべての国の人々を救いと賛美の単一の民として招集している、これこそが常に約束の目的でした」(一四九頁)と簡潔に記しています。ライトによる「ローマ書1、2」はいずれのセクションも味わい深く、ユーモラスな表現に溢れた素晴らしい注書ですが、その中でも特に本書九頁以降は、民族対立が未だに世界各地に深い分裂や悲劇を生み出している世界に生きる今日のキリスト者が、平和づくりを実践していくために注意深く読むべき箇所だと思われまます。よりよい実践のためには、よりよい思考が不可欠です。ローマ書の良きガイドとして、本書は私たちの「思考の変化」(九四頁)を大いに助けてくれるでしょう。

(やまぐち・のりお) 日本同盟基督教団中原キリスト教会牧師
(四六判・一九六頁・定価二三〇円・教文館)

新しい契約

エレミヤによる説教

中島英行
NAKAJIMA Hideyuki

神と格闘した預言者

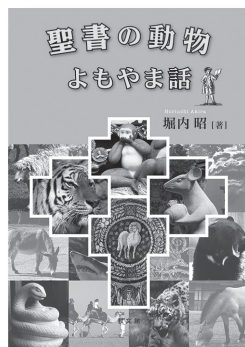
エレミヤの預言の言葉はユダの民に受け入れられず、生涯裏切り者として、孤独の、悲しみの預言者であり続けた。今日ここで、エレミヤは何を語るだろうか。

四六判・並製
定価 1,980 [本体 1,800 + 税] 円
ISBN978-4-86325-147-2

株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

化学者が案内する聖書と動物の心躍る世界

〈評者〉 上田恵介



聖書の動物よもやま話
堀内 昭著



聖書は古い書物である。舞台は地中海の周囲、イスラエルとその周辺地域である。聖書が書かれたその時代、人々と動物との距離は、今の時代よりはるかに近かっただろう。聖書に登場する動物たちを見れば、当時のこの地域に住んでいた人々の動物に対する見方がよくわかる。

著者の堀内さんは立教大学理学部での私の同僚で、大学も先輩なので、専門分野こそ異なるものの、赴任当初から親しくさせていただいた。その堀内さんが聖書の動物というテーマでこの本を書かれた。堀内さんは有機化学の研究者だし、大学での講義も専門分野の講義だったから、彼が動物に興味をお持ちだったとはこれまで知らなかった。

本書は四つの章に分けられている。最初の章が「家畜・人間のそばにいるもの」で、私たちの身近にいたヒツジ、ロバ、ウマ、ウシ、ブタ、そしてラクダも登場する。中近

東の人々にとって、ラクダは生活に必要不可欠な家畜であった。よく登場する動物もあれば、あまり出てこない動物もある、ヒツジは神への生贄としてよく出てくるが、ネコは一回しか登場しない。

次の章の「地の獣」で野生の獣たちが登場する。舞台が地中海周辺であることから、出てくる野生動物の種類は限られるが、シカやウサギはもちろん、サルやヒョウやトラも登場するのは当時の人々の交流の範囲がアジア、アフリカにまで広がっていたことの現れだろう。

三番目が「翼あるもの」で、家禽ではハトとニワトリ、野鳥ではカラスやスズメが出てくる。私はこれまであまり聖書には縁がなかったので、この本を読んで、はじめて知った話もある。それはノアの方舟の話で、ノアが陸地を

も見てとれる。

最後の章は「水に群がるもの、地を這うものと海の魚」で、カエル、ヘビから、ウナギやクジラまで、様々な生き物が登場する。さらには真珠を取るアコヤガイはもちろん、染料となる貝紫を採取する貝のこと、香料として珍重された貝のことも取り上げられており、著者が有機化学分野の専門家であることを彷彿させる。

聖書だけにとどまらず、コーランから仏典まで、古今東西の文献を渉猟されての執筆作業は、堀内さんにとっても楽しい時間だったろうと推察する。

(うへだ・けいすけ) 日本野鳥の会会長・立教大学名誉教授

(A5判・二五四頁＋口絵六頁・定価三二〇〇円・教文館)

いたのだが、じつはカラスだったということはこの本を読んで初めて知った。だがなぜカラスだったのだろう？ カラスはその好き嫌いは別にして、確かに人々に身近な存在ではあるが、その時代の人々にとって、カラスとはどういう存在だったのだろう。そんなことに思いを巡らしながら、この本を読んでみるのも楽しいだろう。



新約聖書を1章ずつ読み進め、毎日の通読を導く

聖書通読 新約聖書1日1章

春名康範

マンガ説法などで福音をわかりやすく伝えてきた著者が、聖書を細切れで読むのではなく、全体として読んで書かれたメッセージを汲みとることを目指す。新約聖書を1章1ページで解説。
●A5判 並製・280頁・定価3,080円

パウロの「旧約」引用に内在する論理を鮮やかに読み解く

パウロ書簡にこだまする聖典の声

パウロは「旧約」聖書をどう読んだか



リチャード・B・ヘイス 東 よしみ訳

不可解なパウロ書簡における「旧約」引用。問テキストの観点から「旧約」とパウロ書簡の間の響きに耳をすませ、パウロに内在する論理を明らかにする。
●A5判 上製・368頁・定価6,820円

11本の聖書箇所から、釈義・黙想・説教に至る諸資料を集成

主よ、わが唇を開きたまえ

説教黙想集

加藤常昭 編訳



説教作成セミナーで実際に用いた、11本の聖書テキストから釈義・黙想、礼拝説教に至る資料を集成。セミナーの雰囲気を感じつつ「説教準備の仕方」が学べる。
●A5判 上製・682頁・定価8,800円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)
<https://bp-uccj.jp>

最先端の英語学習法を伝授！ 最良のキリスト教入門の書！

〈評者〉 遠藤勝信



これで変わる！
あなたの英語力！
英語の環境作りのススメ
伊東寿泰著
Ito Shouhei, Ph.D.



本書は、スーパードグローバル大学の1つである立命館大学で英語教育に携わる著者が、要点を絞って英語上達の秘訣を伝授する本である。「英語はこうすれば上達する」というハウツー本は書店の棚に数多く並ぶが、本書の特徴の1つは、「自分に合った方法を自分で見つけてもらうこと」を読者に期待する点にある。英語力向上には、「英語学習への「意欲と勤勉さ」が欠かせない。「意欲」を生み出し、「勤勉さ」を持続させる something を如何に持つかが英語上達の秘訣である。まず、「英語を身につけて何がしたいか」を明確にすること。将来の夢やキャリア設計が明確であればあるほど学習へのモチベーションも高くなる。また、楽しみながら継続的に英語に接する娯楽を用いることも1つの方法である。「自分に合ったものを」という本書の観点から、かなり詳しく、映画や音楽、スポーツ等の娯楽を

注目するのは、本書を根底から支えている著者の明確な教育理念である。「……彼らの人生が変わってゆくその過程で、微力ながらそのお手伝いができるといことは、大学教員としての価値ある使命・特権だと思っています」(259〜260頁)と著者は謂う。この教育理念は本書の随所に現れる。例えば、「英語日記」の項では「感謝日記」なるものが紹介され、「苦難の中にも感謝できることがあるかを探ること」、「絶望から希望を見つけ」出し、生きる力や再起できる力を得ること」(31〜34頁)の大切さが述べられる。「前向きな英語学習」の項では、人生において前向きになれないときに聖書の言葉が助けとなったという自身の体験が紹介され、「皆さん、一度しかない人生だから、ぜひ前向きに生きて」欲しいと読者に語り掛ける(66

英語学習に生かすヒントが紹介されている。生きた英語を学ぶには海外に出掛けるのが手っ取り早いですが、日本にいても、自分の生活の中で、「英語の環境作り」をすることは決して不可能ではないと著者はその方法を紹介する。英語を上達させるもう1つの秘訣は、「英語の苦手意識」を克服し、「英語に慣れる」ことである。日本人には完璧主義者が多く、間違いを恐れて、つい尻込んでしまう。しかし、間違いを恐れず、間違いから学びつつ、積極的に英語を喋り続けることで「英語脳」が形作られていく。本書の英語教育法は、著者が共著『Perspectives on English Language Education in Japan』で執筆した第1章に基づいており、その英語脳を作り上げ、日常英語会話を獲得するために最低限知っておくべきことが紹介されている。さて、ここまでが本書の支柱に関する解説だが、評者が

(72頁)。しかし、夢が叶わぬときには、「諦める勇氣をもつこと」も肝心と、悩める若者たちに寄り添うアドバイスとなっている(75頁)。英語の例文はすべて聖書から取られており、各章には聖書とキリスト教を解説するコラムが置かれている。終章の「異文化理解」の項では、グローバル社会においてキリスト教を学ぶことが如何に重要であるのかが、著者自身の異文化体験や、政治・社会問題への考察を交えて論じられている。本書は、最先端の英語学習法を伝授する本でありつつ、読者が自然なたちでキリスト教に触れていく、キリスト教最良の入門の書とも謂える。

(えんどう・まさのぶ 東京女子大学現代教養学部教授
四六判・二七二頁・定価一九八〇円・ヨベル)

ヨベル新書の新刊・既刊案内

荒川朋子 アジア学院 校長
アジア学院の窓から

共に生きる
「知」を求めて

新書判 240頁
1,320円

多宗教の人たち
と共に住み、食し、成に
対話し、動かし、共に歩み
対長する。真実の歩み
紡がれた玉手箱。

関川泰寛 (日本基督教団大森めぐみ教会牧師)

キリスト教古代の
思想家たち 教父思想入門

新書判 304頁・1,650円

時代の最前線で、ひりひりする
ような現代感覚を胸に熱く
生きたキリスト教父たちが
立ち上がってくる入門書!

金子晴勇 キリスト教思想史の諸時代

金7巻別巻2
新書判・平均264頁
各巻1,320円

本巻7巻完結!

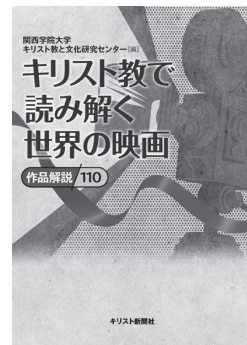
別巻1 アウグスティヌスの霊性思想
別巻2 アウグスティヌス「三位一体論」の研究

金子晴勇 東西の霊性思想 本キリスト教対話
大反響 四六判上製・280頁・1,320円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

キリスト教と現代的視点を もったレベルの高い作品紹介書

〈評者〉**松本敏之**



キリスト教で読み解く
世界の映画
作品解説110
関西学院大学キリスト教と
文化研究センター編



これは、関西学院大学「キリスト教と文化研究センター」の研究プロジェクト〈映画とキリスト教〉の成果として生まれたものである。打樋啓史、加納和寛、橋本祐樹三氏の監修のもと、総勢三五名の執筆者が、キリスト教に関係する一九九〇年以降に製作された一一〇の映画を紹介し、解説している。執筆陣は神学部の教員をはじめとして、関西学院出身の牧師や学校教師などで、関西学院ファミリーのキリスト教専門家たちによる渾身の力作となっている。

ちなみに筆者は、DVDなどで年に約一〇〇本の映画を鑑賞し、教会のHPでも牧師の視点からの映画コラムを公開している。娯楽映画よりも、心の糧になる映画、世界の現実を教えてくれる映画が好きだ。そういう筆者であるが、この本で取り上げられている一一〇本のうち、視聴済みは

六〇本であった。書評依頼を受けてから一〇本を視聴したが、残りの四〇本は未視聴のまま原稿を書いている。

この書物の何よりも大きな特徴は、タイトルにもある通り、キリスト教の視点から世界の映画を読み解いていることである。それは一般の映画作品紹介にはない独自性をもっている。しかもそのレベルの高さは比類ない。共同執筆で、それぞれの専門分野・得意分野から数本ずつ担当されているからこそ、なしたものだろう。それだけに監修者は、全体を見通しながら、割り振ったり、まとめたたりなどで苦労されたことと思う。また聖書のことをよく知らない視聴者のための配慮もあり、作品の背景にある聖書の物語や言葉の説明も丁寧になされている。キーワードや参考聖書箇所が記されているのも親切である。

取り扱っているジャンルは幅広い。私が特に教えられた

のは、歴史にかかわる映画の解説であった(「アレクサンドリア」「エリザベス ゴルデンエイジ」「王妃マルゴ」「キングダム・オブ・ヘブン」「神聖ローマ、運命の日 オスマン帝国の進撃」など)。三十年戦争、ナントの勅令、神聖同盟などがよくわかるようになった。

近現代の史実に基づいた、あるいは背景にした映画の解説からも学ぶところが大きい(「イン・マイ・カントリー」「神々と男たち」「グローリー 明日への行進」「白バラの祈り」「戦場のアリア」「空と風と星の詩人」ユズキの生涯)。「それでも夜は明ける」「夜明けの祈り」「ルワンダの涙」など)。

現代のさまざまな社会問題を扱った映画も取り上げられる。人種差別、死刑制度、諸宗教の人々との共生、宗教者

による性的虐待、移民・難民問題、薬物依存症、性的少数者への差別、繁栄の神学、カルト問題等、多岐にわたる問題について映画を手がかりに詳しい解説がなされている。

聖書物語を題材にした映画では批判的な解説が多かったが、それらを踏まえておくことは大事であろう。また作品の中に差別的表現が含まれていることに対して、現代的視点から注意喚起がなされていることも適切である。

すでに観た映画についての解説を読むことも有益であろうし、この本で取り上げられている映画を一本ずつ観ていくのもよいと思う。私も早速、残りの四〇本を観ていくことにしたい。

(まつもと・としゆき 日本基督教団鹿兒島加治屋町教会牧師)

(A5判・二五〇頁・定価一九八〇円・キリスト新聞社)

物語る教会教義学シリーズ
ここに堂々完結!

神学の小径 V

成就への問い

東京神学大学前学長

芳賀力 著



中間時を生きるわたしたちは、否定的なものに囲まれてもなお希望を抱くことができる! 生命、労働、結婚、政治、教会、神の国……。私たちの歩みのすべてを、終末から降り注ぐ光のもとで物語るシリーズ最終刊。

A5判・434頁・定価5,500円(税込)

▶『神学の小径』シリーズ
好評発売中

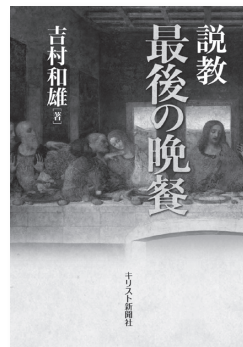
- I 啓示への問い【聖書論】
- II 神への問い【神論/三位一体論】
- III 創造への問い【創造論】
- IV 救済への問い【救済論】

キリスト新聞社 since 1946

162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL 03-5579-2432

“あの夜”の出来事の中

〔評者〕 小泉 健



説教 最後の晩餐
吉村和雄著



御言葉への渇きがあります。御言葉を聞きたいのに、御言葉を聞き取ることができないのです。説教を通してこそ御言葉をいただきたいと待ち望んでいるのに、御言葉が聞こえてこないのです。

聖書に密着した説教が多くなされています。そこでは、聖書の言葉について丁寧な解説が行われます。それを聞いて、御言葉をよく学ぶことはできません。しかし、自分自身に語りかけてもらうことはいまままです。御言葉への渇きは残り続けます。

自分に直接語りかけ、信仰の勧めをしてくれる説教も多くなされています。信仰生活の指針が示され、実行への励ましが与えられます。しかし、それは説教者に語りかけられていたのであって、神に語りかけていただくことはいまままです。やはり御言葉への渇きは残り続けます。御言葉

への渇きを癒す説教とは、どのような説教なのでしょうか。

本書は吉村和雄牧師の説教集です。ここに収められた説教はすべて、吉村牧師が牧会するキリスト品川教会で実際に語られました。主日礼拝での説教もありますが、多くは受難週の木曜日に行われている聖晩餐礼拝での説教です。木曜日の「最後の晩餐」での洗足と聖餐の制定、ゲツセマネの祈り、主イエスが逮捕された後のペトロの否認、そして金曜日の十字架架上的主イエスの死など、受難週の出来事に沿って語られた説教が収録されています。

本書に収められた八編の説教すべてに共通する、はつきりとした特色をいくつか数えることができます。その第一は、聖書の言葉との関係です。どの説教も聖書の言葉に密着しつつ、聖書を語り直すことによって、聖書が証している出来事を物語ります。その際、ほとんど説明や議論を

行いません。驚くほどに明瞭でわかりやすい言葉で主イエスの出来事を語ります。しかも、話は一歩ずつ進んでいきます。この「一歩ずつ」話を進めていくことが、簡単なようで実はとても難しいのです。話が飛躍して聞き手が置いていかれたり、逆に足踏みをして聞き手を退屈させたりすることがよくあります。本書の説教にはそれがなく、たしかな足取りで物語が前進していきます。勝手な読み込みをしたり、登場人物の心理を勝手に推測したりせず、聖書自身語りたいたことをよく聞き取った上での語り直しが行われます。

特色の第二は、説教が語る出来事の中に、聞き手が招き入れられていくことです。社会の出来事がことさらに取り上げられるわけではありません。具体的な逸話が語られる

こともそれほど多くはありません。もつと直接に、御言葉の前にいる聞き手に語りかけ、どの言葉で立ち止まるべきか、どの言葉を心に刻むべきかを教えます。そうするうちに、主イエスの出来事が聞き手自身の出来事になっていくのです。説教はあくまでも主イエスの話をすることに徹しているのに、その話が聞き手の話になり、聞き手への神の語りかけになっていきます。


ここに、日本の福音主義教会が目指している説教の形が見事に示されていると言えます。派手なところはありません。声を大きくすることもありません。忠実な僕として神の言葉への奉仕がなされています。

(こいずみ・けん) 東京神学大学教授
四六判・一五二頁・定価一七〇〇円・キリスト新聞社

あの夜の出来事を
会衆の中で説教する

説教 最後の晩餐

キリスト品川教会名誉牧師
吉村和雄〔著〕



品川・御殿山に建つ「キリスト品川教会」。そこで毎年受難週に行われる「聖晩餐礼拝」において語られた説教7編などを収録。「大衆伝道者」として語る著者の、激しくも慰め深い説教から、世界で最も知られた晩餐の出来事を臨場感を持って味わう。

吉村和雄 (よしむら かずお)
1949年、福島県いわき市生まれ。東京大学工学部卒業。東京神学大学大学院修士課程修了。1990年～2021年、単立キリスト品川教会主任牧師。現在は同教会名誉牧師。全国説教熟事務局長。

四六判・152頁・定価1,760円(税込)

キリスト新聞社 since 1946
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
AVACOビル6階 TEL 03-5579-2432

愛と祈りの贈り物

〔評者〕 露の団姫



日々を生きる力
あなたを励ます聖書の言葉
366
片柳弘史著



「お寺なのに、キリスト教の本が置いてあるんですか!？」
— 今日もお寺に来た人が、図書コーナーを見て驚きます。
でも、ひとたびページをめくれば、誰もが納得をするで
しょう。なぜならそれは、宗教の垣根を超えた「生きる
力」を与えてくれる言葉だからです。いつも愛に溢れる片
柳神父の著書には「信者になって欲しい」といった「こち
ら側の事情」ではなく、ただただ「あなたが幸せになりま
すように」という祈りが綴られています。

心待ちにしていた新刊『日々を生きる力』も、まさに種
まきのような一冊でした。日付とともに聖書のみ言葉が紹
介され、そのひとつひとつに片柳神父のわかりやすいメッ
セージが添えられています。

なかでも目を引くのが「退く時間」（4月29日）です。
ルカ5章15節のみ言葉とともに、「奉仕するのはよいこ

とですが、それだけでは疲れ果て、心がすり減ってしま
います。ときには退き、心を癒すための時間をとりましょ
う」とあります。私はこの箇所を選択した片柳神父の愛に、
また心を打たれました。

というの、仏教においても奉仕の精神である「利他
行」が説かれ、多くの人がその実践に励んでいます。こ
の教えが説かれる多くの場面で抜け落ちている大切なこと
があります。それが、「まずは自分自身を整える」ことです。
奉仕の行いは、自分の生活や心が整っていないだけで
ないことです。ところが世間では、その自分という基盤を
整える大切さを抜きにして「他人様のために」が語られて
しまうため、素直で正直な人たちほど、自分のことすらま
まならないのに「他人様のために」「世の中のために」と
動き回り、心や体をすり減らしてしまいます。

これは仏教徒に限らず、奉仕の精神を大切にするキリス
ト教徒においても起こりがちなことです。だからこそ、
「ときには退き、自分を癒す」ことも、信仰を生きる上で
欠かすことのできない教えなのかもしれません。

また本書では、「おわりに」においても、み言葉のひと
つひとつを「あなたのために準備され、あなたが頁を開く
のをずっと待っていた言葉たち」と念押ししています。ま
ずは、「あなた」なのです。

私の夫はクリスチャンですが、日々の結婚生活の中で、
夫の背後に神様の存在を感じずにはいられません。私は僧
侶でありながら、夫を通じて「神様はおられる」というこ
とを知っています。

ところが、片柳神父が「光の方へ」（3月4日）で語り

かけるように、世の中には、光よりも闇の方を好み、超越
した存在に気付こうとしない人たちも沢山います。人間は
全知全能だと思いがつた人々は、慢心し、そして苦し
みます。その苦しみの中にあっても、神などいないと信じて
疑わず、その愛という贈り物を受け取るうとしません。
しかし、そのような世の中でも、片柳神父は人々を責め
ません。神様からのみ言葉にリボンを結び、それが贈り物
であること、そして誰もが受け取れるものであることを知
らせ、受け取りやすくし、すでに受け取っていることを伝
えます。

これこそが、片柳神父が神様から与えられた「大いなる
賜物」なのでしょう。

（つゆの・まるこ 落語家・天台宗道心寺住職師）
（文庫判・三九〇頁・定価九九〇円・教文館）



新刊 死生学年報 2023

死生学の拡がり

東洋英和女学院大学
死生学研究所編
●A5判並製 定価2,750円

メンタルヘルスと死生観
スピリチュアリティの二つの枝
石丸昌彦

●
死者とデジタルに再会する技術
死者AIの現在とそれがもたらす
諸問題を考える
佐藤啓介／市川岳／有賀史英

●
『鬼滅の刃』から見た
現代日本人の死後観
石井研士

●
スピリチュアリティと
フェミニズムの〈あいだ〉
女性の身体性と「自然」をめぐる
橋迫瑞穂

●
認知症の心理学
認知症の人の心の世界
佐藤眞一

●
老いる人びとと
多様な〈死者〉との縁
後藤晴子

●
ハンナ・リデルの藍綬褒章
「救贖」の宗教から国家への転換点
松岡秀明

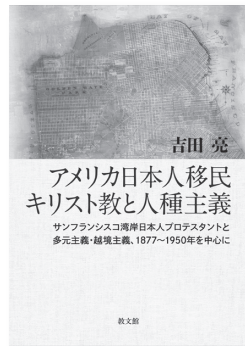
●
他、1篇・死生学文献紹介

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

日系クリスチャンの多元性志向と その変化を丹念に追った力作

〈評者〉小檜山ルイ



アメリカ日本人移民
キリスト教と人種主義
サンフランシスコ沿岸日本人プロ
テスタントと多元主義・越境
主義、1877-1950年を
中心に
吉田 亮著



本書は、一八七七年から一九五〇年に、アメリカに在住した日系移民のうち、サンフランシスコ湾岸のプロテスタント・キリスト教徒を主たる研究対象とし、彼／女らが、生き残りをかけ、どのようにアメリカの人種主義に対処したかを論じたものである。

第一章と第二章はそれぞれ一九世紀末における福音会と二〇世紀初頭における教派教会の成立と活動を、第三章と第四章は、一九〇八年以降の、日系クリスチャンによる中国賭博撲滅運動とキリスト教伝道運動を採り上げている。

以上四章は、一九二四年の「排日」移民法成立までに、日系人クリスチャンが、先んじて排斥対象となった中国人から日本人を切り離し、また、自給自治の教会を立ち上げ、そこに日本的要素を加味して「多元的キリスト教」を構築すること、「日本人」はアメリカ市民となる資質を持つ

と証明しようとしたと論じている。著者の言葉を使えば、日本人移民を「同化可能」な「例外的人種」として構築する努力を通じて、「人種創成」を試みたというわけだ。

第五章と第六章は、一九二四年に日本人が「帰化不能外国人」とされた後の戦略として、二世の日本留学と満洲伝道を探り上げている。この時期の在加州日本人クリスチャンは、祖国日本の文化的資源との結びつきをさらに強めつつ、その越境的性格に立脚して、アメリカの人種主義にも、日本の忠君愛国にもからめとられない、二世版の「多元的キリスト教」構築を試みた。また、満洲では、白人支配に對抗する大日本帝国という構図を背景に、アジア主義的な「多元的キリスト教」の創造が目指されたという。

最終章は、戦中の強制収容、再定住の被害が少なかったニューヨークの日本人コミュニティに目を転じ、彼らが盛んになった越境的な歴史叙述の潮流を積極的に取り入れた力作である。

「同胞」や敗戦国日本への支援を通じ、諸人種・民族集団の文化的貢献を認める「文化的民主主義」に基づく「多元的キリスト教」の構築を目指したと指摘する。

キリスト教史という観点から言えば、本書は、日系移民のキリスト教は多元性を志向し、その内容は、各時代の権力関係によって規定され、変化したことを明らかにする。

著者吉田亮氏は、長年在ハワイおよびアメリカ本土日系移民とキリスト教の関わりを研究してきた、この分野の第一人者である。その特徴は、雑誌、新聞、教会記録等の一次資料を丹念に追い、未知の事績を掘り起こす、地道で粘り強い学術的姿勢にある。本書は、一九世紀末から二〇世紀におけるアメリカ人種主義に抗し、日本人移民を「例外的人種」として打ち出すプロジェクトにおいてクリスチャンが果たした役目を軸に、これまでの研究を整理したものであるというポスト・モダンの理解と、一九九〇年代末以降に

筆者にとつて特に興味深かったのは満洲伝道である。アメリカの日本人移民クリスチャンが一九二〇年代以降満洲伝道に関わったことにこれまで注意してこなかった。一九二七年の日米親善「人形交流」の際、大連ではアメリカから贈られた青い目の人形に歓喜する現地日本人社会をアメリカへの迎合と批判する新聞投稿があった。なぜ、大連で批判が起こったのか、辺境地ナシヨナリズムだけでは説明しきれない。だが、満洲にアメリカで「排日」を経験した日本人がいて、自給自治志向のクリスチャンのリーダーシップもあつたのなら、投稿の背景が見えてくる。調べる価値はありそうだ。

(こひやま・るい 東京女子大学教授)
A5判・三三六頁・定価五九四〇円・教文館

牧師は結局
神にのみ責任を負う

〔評者〕 金井美彦



ある牧師の眼
その視線の先にあるもの
栗原 茂著



本書は自伝と言えないものの、氏の生い立ちから牧師になるまでの経緯（第一部「生い立ち」、一九七五年から十三年にわたる、ルーテルアワーの冊子『なかま』掲載のエッセイの再録（第二部「ある牧師の眼」）、さらにルーテル教会の牧師を解任され（一九九五年）、青山学院アイビーホールを拠点とするブライダル専従牧師の時代、二〇〇六年復職以降のエッセイを核とした第三部「折々の記」、そして旅の記録である第四部「聖地探訪記」からなっており（二〇二〇年の日付の文章もある）、氏の生涯のあらましがおおよそ浮かび上がる。

世代の差を思う場面もあるが、一方で氏の牧師としての活動とそこで出会ってきた人たちの姿を見ていくと、私自身の思いや活動と実は多くの場面で重なっており、非常に親近感を持ったのである。

ずである。しかし氏は「適正な合意」という言葉に踏みとどまる。その姿は踏み外せば転げ落ちてしまうきつめの尾根を、なんとか頂上へ向かおうとする登山者である。だからと言ってそれはバランスをとるとか、中立であるということとは全く違う。「何が神の御心であるか、何がよいことで、神に喜ばれ、また完全であるかをわきまえる」（ロマ書二二章二節）ことが第一なのだ。

氏のこの立ち位置は、一九九五年の湯河原町での町議会選挙に際して、ツルネン・マルティ（弦念丸呈）氏の後援会長を引き受けたことにも明らかだ。ツルネン氏には利権にまみれたその町を平和で民主的な街にしたいという強い思いがあったが、後援会を引き受けてくれる人がなく、ついに栗原牧師にお願いに来た。牧師は逡巡する。「政治的中立性」、これを付度するなら、結局何もしないということになる。しかし、栗原牧師は引き受けた。政治的中立という美辞によって、不作為が正当化され、正義が損なわれていくことに耐えられなかった。氏が起草された『湯河原新聞』に折り込まれた挨拶文の一部を引用しておこう。

「〔弦念氏の〕立候補のニュースを聞いた人々の中には、もちろん、賛否両論があるでしょう。ひよっとしたら彼の登場によって具合の悪くなる人もいられるかもしれません。し

牧師のエッセイ集ということで、信仰論や神学が開陳されているのかと思いきや、むしろ伝統や権威から離れて自由に働く栗原牧師の姿が印象的だ。第二部にある「環境を守る」と題した一九七五年の文章にあるように、教会のある地域で「**二丁目環境を守る会」を発足させ、この活動に邁進される。

「牧師のわたしには、世にいう駆け引きが身につかない。交渉はもっぱら、正面切ったものでやるしかない。住民に対しては地域エゴに陥らぬよう働きかけ、企業に対しては、企業モラルを問う。妥協ではなく、適正な合意を引き出すことにのみ奉仕しよう」と努力を傾けてきた。ロマ書二二章二節が行動基準、指針である」（二〇九頁）。

氏もまた経済至上主義の戦後日本、そして土地資本主義に支配された日本の当時の現実に強い批判を持っていたはかし、異なる者を排除して同じもの、似た者だけで作る、閉ざされた「和」が尊いとは思えません」（一九九頁）。

差別の相次ぐ二〇二三年の我が国の状況では、この言葉は今なお重い。あまりに残念である。とはいえ、選挙で弦念氏は当選するも、後援会員二五〇人のうち、当選祝いに来た人はなんと四名であったというのだ。弦念候補を支持した人は一〇五人おり、四位当選であったが、皆で集まって万歳するという空気はなかったという（二〇〇頁の注を参照）。大っぴらに支持することは身を危うくすることも、現実なのかもしれない。しかし、本当はそう思わされているだけかもしれない。

この活動のこともあったせいか、間もなく牧師職を解かれ、職を失うが、ほどなくブライダル専門の牧師として「拾われる」ことになった（二〇八頁）。しかしここから新たな展望が開かれる。そして氏は強くなった。この先も紹介したいが紙幅が尽きた。氏のエッセイに深く刻まれたイエスとパウロの働きへの真摯な洞察を、私自身の糧としたいと強く思う。じわりと力が湧いてくる、豊かなエッセイ集である。

（かない・よしひこ）日本基督教団祐教会牧師
（四六判・三四九頁・定価二二〇〇円・リットン）

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenritkan_syoten_0530@ghoo.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区138 穀粒センター・イマフ	022-223-2736	共用		fcqwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中区新設22 千葉カリスチャペルビル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待星堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@sj.com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	162-0814	東京都港区新小川町9-1日キ殿内(外販専門)	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkikan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.digitar.jp/~yokohamais/mbs.html	sksch@mvva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市中区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.la.coccan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.yoto-inet.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-inet.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkikan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwb3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.gotops.jp/matsuyama_1007/index.html	sksch@doki.doki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用		kcbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacts.net	info@okinawacts.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■日本キリスト教団出版局 VTJ旧約聖書注解 イザヤ書1〜12章

大島 力著

新約聖書を読む上において重要なテーマとなる「インマヌエル預言」「残りの者」等を展開するイザヤ書1〜12章を、共時的視点を含めながら丁寧に解き明かす。

A5判・210頁(予定)・定価4400円
2023年9月30日まで特価3960円(税込)

説教黙想アレテイエ叢書

三要件 深読 十戒・主の祈り

日本キリスト教団出版局編

三要件 深読 使徒信条

日本キリスト教団出版局編

A5判・208頁(予定)・定価2640円

A5判・220頁(予定)・予価2400円
教会の信仰の大黒柱となる十戒・主の祈り・使徒信条。この三要件(さんようもん)をじっくり味わう「三要件 深読(しんどく)」シリーズ全2巻。説教者はもちろん、信徒にもおすすすめ。『説教黙想アレテイエ』からの書籍化。

わたしが「カルト」に？

ゆがんだ支配はすぐそばに

竹迫 之、齋藤 篤著

川島堅二監修

カルト問題の現状と対策、また既存の宗教との違いをどう見極めたいのかなど、一通りの対策を提示。カルト宗教脱会者の牧師らが誰もが加担しうる支配構造に注意を促す。

四六判・136頁(予定)・予価1400円

■新教出版社

神と上帝

聖書訳語論争への新たなアプローチ

金 香花著

19世紀中国での聖書翻訳における訳語論争を手掛かりに、その後の朝鮮語と日本語における聖書翻訳を比較、さらに、それを近年の発達めざましい聖書訳語論と付き合わせ、そもそも聖書訳語とは何かに迫った意欲的な研究。

A5判・200頁・予価2900円

INFORMATION

近刊情報

■教文館

マルキオン

異邦の神の福音

アドルフ・フォン・ハルナック著

津田謙治訳

近代ドイツを代表する神学者ハルナックの代表作。2世紀のキリスト教会最大の異端マルキオンを研究する上で不可欠な研究書。

A5判・312頁・定価5060円

福音と世界

2023年5月号

特集 「共感」をめぐって

ヘイト／反ヘイトの(解かれ)へ

寄稿者 李在永、有住航、佐々木和之

柴田かおり、井谷聡子、石原真衣

新連載 グレート小林と三人の女(飯田華子)

／連載 地域から考える在日朝鮮人史と教会

史(金耿昊)、私は告白する、私の神を(長尾

優)、古代イストラエル文学史序説(勝村弘也)、

フッド・スピリチュアルズ(山下壮起)

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

から室集編

中高生の頃、毎日のように友人たちと本の貸し借りをしていた。いろんな本を読みたい(なるべく安く)、好きな本は読んでほしい、という衝動から始まったことだが、同時に友人とのコミュニケーションの手段にもなっていた。単に会話の話題が増えるだけでなく、お互いの内面を深く知る機会だったように思う。借りた本を読んでいると、貸してくれた相手の好みやものの考え方を感ぜられる気がしたし、その印象は日常の中で見ているその人と合っていたり逆に意外だったりした。これは自分の趣味ではないと思う本も時にはあったものの、本を通して人と理解し合う大切な経験ができた。

新卒でキリスト教出版社に就職した当初は、本を「売る

本・批評と紹介

予告

本のひろば

2023年6月号

(書評) J・L・バレット著『なげ子どもは神を信じるのか』、オリゲネス著『キリスト教教父著作集第10巻ケルスス駁論Ⅲ』、H・W・ホーランド著『コリント人への第一の手紙Ⅱ・Ⅲ』、本城仰太著『使徒信条の歴史』、増田琴著『マルコ福音書を読もう』他

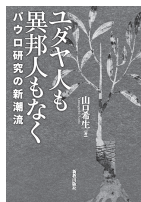
もの」として見ることに戸惑い、読者のニーズに合わせて本作りを考える視点になかなか馴染めなかった。三年経った今、視点が変わっただけで見ているのは同じ本だと、やっと納得してきている。この本を読んだ人がどう感じるか、その感情や情報を必要とするのはどんな人かと問うことは、友人の好きな本の中に友人自身を見た体験の裏返しにも思える。本の編集と販売の現場に立つ中で、こうやって考えて作られた本を自分や友人たちはそれぞれ選んで受け取っていたのだな、と振り返って気づかされたのだ。

今年から『本のひろば』誌担当になりました。キリスト教界と出版界に限らず、社会全体の先行きが見通せない時代ではありますが、だからこそキリスト教書の持つ意味は大きいと思います。本と読者を繋げる大事な場所である書評をお届けするため、精一杯頑張ります。(豊田)

ユダヤ人も異邦人もなく

山口希生著 パウロ研究の新潮流 パウロの宣教とは？

信仰義認を重視する従来のパウロ理解に異議を申し立て、20世紀後半から新約学界で激しい論議を呼んでいる「パウロへの新しい視点」(NPP)。本書は19世紀のパウルから21世紀のパークレーまで解説。本邦初のNPP本格入門書。
4月24日 ◆四六判・定価2475円



交差するパレスチナ

新たな連帯のために

在日本韓国YMCA編

差別の複雑な実態を明らかにし、それへの抵抗にインスピレーションを与える「交差性」の概念を手がかりに、パレスチナに学び、パレスチナと共闘する。2021〜22年に開催され反響を呼んだオンラインセミナーが待望の書籍化。寄稿者：ニダル・アブズルフ／金城美幸／北川眞也／阿部小涼／保井啓志／中村一成／太田昌国／役重善洋／早尾貴紀。
4月4日 ◆四六判・定価2640円

コヘレトの言葉

人生を生きよ

ヴァルター・リユティ著／宍戸達訳

旧約の知恵への福音的アプローチ



コヘレトはニヒリストではない！「すべては空である」と観ずる旧約中の異色の書。しかし著者はコヘレトを、神への信仰に立って自らの人生を生きよと勧める人として読む。傑出した説教者による力強い講解！『説教者ソロモン』を改訳・改題して贈る。
4月4日 ◆四六判・定価2310円

旧約聖書文学書

要約と概説

宮平 望著

あらたな旧約入門シリーズの第3弾！

旧約の複雑多様な世界を読み進めるための絶好の手引き。本巻はヨブ記、詩編、箴言、コヘレトの言葉、雅歌を扱う。【既刊】は『律法書』、『歴史書』。次は『預言書』
3月17日 ◆A5判・定価2090円

エリックとマチルダ

【絵本】

ミーシャ・リヒター作、みつじまちこ訳

大反響

思いを伝える方法ってなんだろう？

エリックはマチルダに一目ぼれ。彼女の気を引こうとしますが、全然振り向いてくれません。すっかり落ち込む彼に森の賢者が与えたアドバイスとは……。作者はウクライナ出身の漫画家。 ◆A4変型判・定価1980円

エリックと
マチルダ



日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457
e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp ホームページ https://bp-uccj.jp 《価格10%税込》

日本語で書き下ろす聖書注解シリーズ、好評刊行中!

VTJ 旧約聖書注解・NTJ 新約聖書注解



VTJ旧約聖書注解

2023年4月25日刊行予定

イザヤ書 1~12章 大島力

400以上もの箇所が新約聖書で引用され、イエス理解にも多大な影響を与えたイザヤ書。一般的に三つの部分に分けて理解されるこの書を統一体として解釈。トピックでは、「残りの者」「メシア預言」等のテーマを扱う。 ◆A5判 上製・210頁・通常定価4,400円

シリーズ
10巻突破記念
特価**3,960円**
2023年9月30日まで

シリーズ好評発売中

- 『出エジプト記 1~18章』 鈴木佳秀 定価4,840円
- 『出エジプト記 19~40章』 鈴木佳秀 定価4,840円
- 『申命記』 鈴木佳秀 定価8,580円
- 『サムエル記上 1~15章』 勝村弘也 定価7,260円
- 『列王記上 1~11章』 山我哲雄 定価5,280円
- 『コヘレト書』 小友聡 定価3,520円

- 『ルカ福音書 1章~9章50節』 嶺重淑 定価5,720円
- 『ガラテヤ書簡』 浅野淳博 定価6,600円
- 『エフェソ書簡』 山田耕太 定価5,280円
- 『第1、第2、第3ヨハネ書簡』 三浦望 定価6,600円

説教黙想アレテア叢書

さんようもん しんどうく 三要文 深読 十戒・主の祈り

日本キリスト教団出版局 編

2023年4月25日刊行予定

教会の信仰の大黒柱となる十戒・主の祈り・使徒信条。この三要文を味わうシリーズ。本書では「十戒」と「主の祈り」を取り上げる。小泉健、荒瀬牧彦、朝岡勝など充実の執筆陣。 ◆A5判 並製・208頁・定価2,640円

シリーズ続刊 『三要文 深読 使徒信条』 2023年5月刊行予定



本のひろば.com

